

パトロール評価基準

2021.7

■ 「重大性」「可能性」の見積もり基準

※ 書類関係は本基準の内容に準じて判定する

A 「重大性」の見積もり基準

重大性	内 容	点 数
極めて重大 (死亡・重篤)	死亡、切断（指、腕、足等）、重傷中毒	5
重 症 (休業30日以上)	病院の治療が必要で、長期入院及び長期休業が予想される	4
中 症 (休業4日以上)	病院の治療が必要で、入院する必要がある	3
軽 症 (休業3日以内)	病院の治療が必要だが、通院でよい	2
軽 微 (不 休)	病院の治療を必要としない軽微な災害（アカチン災害）	1

B 「可能性」の見積もり基準

可 能 性	内 容（目 安）	点 数
確実である	危険有害要因に継続的に接するか、頻繁に接し、注意していても災害になる。 (今その場所で作業している。又は、今でもそこで作業するその可能性が高い。又は、同じ危険箇所が10箇所以上ある。)	5
可能性が高い	危険有害要因に接する頻度が高く（1回/1日以上）、接した場合は、注意していても災害になる。（今作業していないが、この後で作業する可能性が高い。又は、同じ危険箇所が3～9箇所くらいある。)	4
可能性がある	危険有害要因に時々（1回/1日～2日）接し、うっかりしていると災害になる。 (今日中に作業する可能性がある。又は、同じ危険箇所が2箇所ある。)	3
可能性が低い	危険有害要因に接することはほとんど無いが（1回/2日～3日以下）、うっかりしていると災害になる。（今日はその箇所作業する予定はない。)	2
極めて可能性が低い	普通に注意していれば、災害にならない。	1

■ 評価点

		重大性					
		極めて重大	重 症	中 症	軽 症	軽 微	
可能性	確実である	5	25	20	15	10	5
	可能性が高い	4	20	16	12	8	4
	可能性がある	3	15	12	9	6	3
	可能性が低い	2	10	8	6	4	2
	極めて低い	1	5	4	3	2	1

■ 危険度の判定基準

リスクレベル	内 容	リスク点	取扱い基準（リスク低減措置の優先度）
V（使用停止）	直ちに解決すべき問題がある	25・20	<最優先>直ちに作業を中止し改善する
IV（使用停止）	直ちに解決すべき問題がある	16・15	<最優先>直ちに作業を中止し改善する
III（使用停止）	直ちに解決すべき問題がある	12～5	<優先>直ちに作業を中止し改善する
II（是正勧告）	問題がある	3・4	<優先>優先的に改善する
I（指導）	許容可能である	2・1	残留リスクに応じて対処する

■ 評価の算定

$$\text{評価} = 100 - (\text{V} * \text{数} + \text{IV} * \text{数} + \text{III} * \text{数} + \text{II} * \text{数} + \text{I} * \text{数})$$

※ 80点未満は再パトロール

512-12 北和会合同パトロール実施要領

当社は、店社が定める危険性又は有害性の調査結果に基づく措置についての作業所における実施状況等を確認する手段として、パトロールを実施する。かつ、元請及び関係請負人が一体となって安全衛生水準の維持向上を図るため、継続的な取引関係にある協力業者の協力を得て、当社関係者及び協力業者の合同によりこれを行うこととする。

1 北和会合同パトロールの種類と対象作業所

(1)長野北和会合同パトロール

- ①本社建築事業本部が所管する作業所
- ②土木事業本部が所管する信越エリアに存する作業所

(2)東京本社北和会合同パトロール

- ①東京本社建築事業本部が所管する作業所
- ②土木事業本部が所管する関東エリアに存する作業所

(3)大阪北和会合同パトロール

東京本社建築事業本部が所管する関西エリアに存する作業所

(4)松本北和会合同パトロール

本社建築事業本部が所管する中信及び南信エリアに存する作業所

2 合同パトロールの実施時期

原則毎月1回とする。

日程は、店社の安全衛生計画書中に日程を記載する。

3 合同パトロールの構成

(1)点検者

パトロール実施者は、次の者を以って構成する

- ①店社の社員及び工事責任者のうち安全管理委員として指名を受けた者
もしくは事業本部長が指名する者
- ②協力業者の店社関係者のうち北和会安全管理委員として指名を受けた者
もしくは事業本部長が指名する協力業者の安全管理担当者
- ③安全管理室員

(2)班編成

- ①1班あたり2～4名を目途とする。すべての班に上記3(1)②の者を1名以上含み、当社役員と協力業者関係者の合同とし、班長を1名定める。
- ②班編成は、パトロール実施日の1週間前までに、安全管理担当者が対象現場を選出のうえ、「合同パトロール編成表」を起案し、店社運用責任者（事業本部長）が承認する。
- ③安全管理担当者は、編成が確定次第、参加者に通知する。

4 合同パトロールの実手順と評価方法

(1)パトロールの実手順

- ① 工事責任者（もしくは工事責任者が指名した者。以下同じ。）は、パトロール実施者（以下、点検者という。）に対して、現場の概要及び工事安全衛生計画の内容を「新規入場者教育資料」等を使用して説明する。
- ② 点検者は、工事責任者の案内により、工事現場の実査及び安全衛生書類の整備状況の確認を「パトロールチェックシート」に基づいて行う。
- ③ 点検者は、「パトロールチェックシート」及び「安全パトロール結果報告書」にパトロールの評価結果を記載し、工事責任者に対し、それぞれ写しを交付する。
- ④ 点検者の班長は、工事責任者に対し、パトロールの講評を行う。

図 512 の 1 パトロールチェックシート (本社建築事業本部様式)

項目	分類	番号	重点	チェック事項 ()内は該当する箇所には○を付け評価して下さい	評価	基準	重大性	備考 (指導事項など)
I 安全衛生管理活動状況	安全衛生管理活動状況	1101		労働災害防止計画書の作成、承認、保管はされているか。 労働災害防止計画書は、労働災害防止計画書の計画通り開催し内容が適切で記録は有るか。 (1)日/月、対象者で記載した。その場合は、該当の	4			
		1102		害行提出書類の提出状況・記録は適切か。 (特元開報書、労災保険成立、計画書、設備書)	4			
		1103	○	KY活動の実施状況はどうか。 (KYは具体的な内容か、記録は適切か、作業手順書を活用しているか、 リストアップの考え方はどうか、行動目標・危険の危険項目は具体的に記載しているか)	4			提出した作業手順書を参考に して危険認知を行う
		1104		協力業者の安全施工工サイトの整備状況は良いか (悪い場合は、業者名を表紙に明記する) また、元請としての整備状況、支援状況は良いか。	4			
		1105	○	班長者、安全当番の定規実施状況は良いか、準正地事項等、記録は有るか。 安全日報の添削内容は、労働災害防止計画書 (工事内容) にあつたものか	4			記録書は1日に1回以上添削 手紙
		1106		安全工程行合 (労働条件) を実施しているか、記録は有るか。 班長者・班員が確認しているか。(作業現場確認)	4			
		1107		班長は、班長教育・安全衛生責任者の特別教育をそれぞれ受けているか。	4			未受講の場合は、その協力 業者名を報告書に記載
		1108		入場者教育の「協力業者労働安全衛生関係提出書類」が提出されているか。 送り出し教育実施計画書は提出されているか。	4			チェックリストを活用する
		1109	○	協力業者労働安全衛生関係提出書類の内容確認 施工体制表・班長者・班下員教育計画・下請業者構成表・作業員名簿 ・中小事業主・一人前等での政府労災保険特別加入の確認	4			一人前等特別加入状況は新 規入場者アンケートで確認す る (低項目は確認不要)
		1110	○	協力業者労働安全衛生関係提出書類の内容確認 健康診断・特殊健康診断の届出状況、資格確認、入場者の確認 健康診断結果・新規入場者の前立届出結果に基づく健康指導を行っているか	4			左記事項については、新規入 場者アンケート記載事項にて 確認する
		1111		協力業者労働安全衛生関係提出書類の内容確認 労災保険加入状況 (未記入部分が無い)、加入されているか)	4			左記事項については、新規入 場者アンケート記載事項にて 確認する
II 作業現場の安全衛生管理状況	作業現場の安全衛生管理状況	2201		警戒帯定の状況は、正しいか。加木又は覆いを設置しているか。 (警戒帯の設置状況は、正しいか。)	4			足場上もきむ
		2202		上下作業していないか。(危険区域の立ち入り禁止措置をされているか)	5			表示・区画
		2203		投下設備の (設置状況・立入禁止表示) は、正しいか。	4			設備は3m以上の高さ必要
		2204		落下防止ネット・囲いネット・網等 必要か、その設置状況は、正しいか。 (すきま、たれ、固定のビッチ、固定状況、材料自体の経年など)	5			特にネットのすきまをチェッ クすること
		2205						
		2301		高所作業において、作業機は設置されているか。設備その他安全帯の取付け設備を設置し、安全 帯を適切に使用しているか。(高さ5m以上はフルハーネス安全帯)	5			ランヤードは11種の選定を指 導する。
		2302	○	作業機性能、開口部等の状況 (手摺、巾木、作業表示) は正しいか。 床面開口部 (スリッパ) は正しいか。覆いの状況は、正しいか。	5			設備管理、E、L、階段・打 越開口部は注意
		2303		階上の危険のある屋根上作業の対策は、正しいか。(歩板、安全ネット、網等、安全帯等)	5			
		2304	○	作業通路 (安全通路) ・乗降設備 (白旗・標識、防護対策など) の状況は、正しいか。 作業通路の表示が設置されているか。	5			遠隔表示はわかり易く
		2305	○	作業通路 (安全通路) ・乗降設備 の標示順序の処理は、正しいか。 建物への出入り口の標示は正しいか。	5			
		2306		荷受ステーの状況は正しいか。(手摺・巾木・標識・乗降設備表示・乗降設備等)	5			内部足場材、シート設置
2307								
2308								
ローリング 作業機	ローリング 作業機	2401		(手摺、標木、網等設置、開き止め、足元) の状況及びキャスターのブレーキは正しいか。 組立高さ (作業機) は制限以下か。(7.7L-5m L=最小スパン)	5			
		2402		組立・解体作業は、足場組立特別教育修了者が実施しているか。 H5.0m以上 (4段) は、作業責任者のラベリングが直接指導しているか。	4			
		2403		運転装置、使用会社、使用責任者、使用方法等の表示は正しいか。	4			積載重量250kg以下
		2404		安全帯 (高さ5m以上はフルハーネス型安全帯) の使用は、適切にされているか。	5			
		2405						
組立足場	組立足場	2501		適切な組立 (踏切付一掃り止め付きか・禁止・高さ2m未満) を使用しているか。	4			
		2502		(3点支持、又は2点支持・スパン1.8m未満・固定の状況・水平・昇降310cm以上・ 鋼脚の強度・高さ) は正しいか。	4			3mの足場は、3点支持と する
		2503		組立足場の組立・解体・変更等作業は、足場組立特別教育修了者が実施しているか。	4			
		2504		階上の危険のある所 (足場上・2ヶ所以上・つり足場上・開口部の際など) で使用していないか。	5			
		2505		可搬式作業台 (立角) の構造は正しいか。 (作業高が4.0m以上、高さ0.6m以上、高さ2m未満、手摺り幅4ヶ所) (作業機高さが1500mm以上の場合は、補助手摺または感知バー)	4			

(2)パトロールチェックシートによる評価方法

- ① 点検者は、チェックシートの全ての項目に対し、次の3つのいずれかを記入する。

「○」（是正の必要無し。）

「×」（是正の必要あり。）

「-」（該当なし。チェック対象の工事が行われていない。）

- ② 点検者は、「×」の項目に対し、重大性及び可能性を評価する。

重大性及び可能性の評価は、508-1 店社のリスクアセスメント実施要領の

「図 508 の 5 重大性の区分」

「図 508 の 6 可能性の区分」（いずれも P46）をそれぞれ準用する。

但し、パトロールチェックシート中の「I 書類管理状況」については、以下の図 512 の 2 及び図 512 の 3 の通りとする。

図 512 の 2 安全衛生書類管理状況の重大性の区分

区分	事例（法的重要度を考慮）	評価
極めて重大	使用停止命令、作業停止処分に該当する	5
重大	是正勧告に該当する	4
中程度	指導に該当する	3
軽微	口頭での指摘に該当する	2
なし	指導の対象にならない	1

図 512 の 3 安全衛生書類管理状況の可能性の区分

区分	事例（法的重要度を考慮）	評価
確実である	使用停止命令、作業停止処分に該当する	5
可能性が大きい	是正勧告に該当する	4
可能性がある	指導に該当する	3
可能性が少ない	口頭での指摘に該当する	2
ほとんどない	指導の対象にならない	1

(3) パトロール結果報告と是正報告

- ① 点検者によるパトロール結果報告

点検者は、「パトロール結果報告書」を使用し、パトロールチェックシート中の「×」（是正の必要あり）の項目、優良事項等を記載のうえ、工事責任者に交付する。

パトロール結果報告書は、工事責任者の受領サインの後、工事統括、施工部門長、事業本部長を経由して、安全管理室に提出する。

② 工事責任者によるパトロール是正報告

工事責任者は、「パトロール是正報告書」(上記パトロール結果報告の複写)を使用し、是正結果を記載のうえ、工事統括、施工部門長、事業本部長を経由して、安全管理室に提出する。

パトロール結果報告書

パトロール実施日 年 月 日	
安全パトロール結果報告書	
月度安全パトロール 班	
現場名	巡回者会社
工事責任者	北和会 (倉島氏)
1. 工事概要 (建築) 造・ / ・ 棟・延床面積 ㎡・工期 月 ~	
2. 工事進捗状況 無災害延労働時間 時間(月 日)就労人員 ・出来高 %	
3. 安全指示事項 安全パトロールの結果下記事項に不備がありますので即時是正し、是正報告書を担当部門まで提出して下さい。(◎は、写真を添付すること。)	
指示事項	写真
チェック番号と業者名を明記して下さい	
4. 優良事項	
受領者	担当事業本部 安全管理部門 担当部門 受付日
氏名	◎

回覧順： 点検者 → 安全管理部門 → 担当部門 → 担当事業本部 → 安全管理部門 (保管3年間)

パトロール是正報告書

担当事業本部 殿		パトロール実施日 年 月 日	
安全パトロール是正報告書			
月度安全パトロール 班			
報告書提出日	年 月 日	巡回者会社	班
現場名		北和会	
工事責任者	◎	北和会	(倉島氏)
1. 工事概要 (建築) 造・ / ・ 棟・延床面積 ㎡・工期 月 ~			
2. 工事進捗状況 無災害延労働時間 時間(月 日)就労人員 ・出来高 %			
3. 安全指示事項 安全パトロールの結果下記事項に不備がありますので即時是正し、是正報告書を担当部門まで提出して下さい。(◎は、写真を添付すること。)			
指示事項	写真	報告事項	是正日
チェック番号と業者名を明記して下さい			
4. 優良事項			
受領者	担当事業本部 安全管理部門 担当部門	担当部門交付日	
氏名	◎		

回覧順： 工事責任者 → 担当部門 → 安全管理部門 → 担当事業本部 → 安全管理部門 (保管3年間)

(4) パトロール結果の評価方法

安全管理室は、北和会合同パトロールの結果を、評価するため、工事現場毎に評点を、かつ事業本部毎に指摘率を算出する。

① パトロール評点 (工事現場毎)

工事現場毎に、パトロールチェックの状況を、是正が必要となるチェック数及び是正前の危険の程度を勘案して算出した数値。安全管理室にて、算出し集計する。なお、評価が80に満たない工事現場については、工事統括もしくは安全管理室による再点検(巡視確認)を速やかに行う。

算出方法

パトロールチェックシートに「×」(是正の必要あり)のうち、重大性及び可能性により算出されるリスクレベル(V、IV、III、II、I)に応じて、下記の数式で算出する。

$$\text{評点} = 100 - (5 \times (\text{Vの個数}) + 4 \times (\text{IVの個数}) + 3 \times (\text{IIIの個数}) + 2 \times (\text{IIの個数}) + 1 \times (\text{Iの個数}))$$

例 チェックシートの「×」計4個 (IVが2つ、IIIが3つ) の場合

$$\text{パトロール評価} = 100 - (4 \times 2 + 3 \times 3) = 83$$

②パトロール指摘率

パトロールチェック対象の項目に対して、どれだけの項目に是正が必要となるチェックが入ったかを比率で表す数字。（店社安全衛生目標の管理数値として使用される。）安全管理室にて、事業本部毎に、四半期毎に集計する。

算出方法 指摘率 = 「×」の個数 / 「○」の個数 + 「×」の個数

(5) パトロール結果に伴う措置

① 店社管理者に対する報告

安全管理室長は、合同パトロールの実施後、「合同パトロール結果報告書」により、工事現場毎の評点表を作成し、パトロール結果報告書及びパトロールチェックシートを添付のうえ、事業本部長及び施工部門長に回付し、保管する。

② 協力業者に対する指導

安全管理室長は、パトロール時の是正が必要となる指摘事項のうち、協力業者が行うべき措置の遺漏等に起因する場合は、協力業者事業主宛に書面にて通知する。なお協力業者事業主は、是正事項を確認のうえ、是正ないし周知指導した旨を書面にて返信する。